

## 第 39 回オンコロジーセミナー プログラム

メインテーマ：「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）実践のための多職種チーム連携」

会期：2026年7月4日（土）10:00～16:35（予定）

会場：WEB 開催（ライブ配信）

担当役員：石川 孝（東京医科大学 乳腺科）

藤田 行代志（群馬県立がんセンター薬剤部）

番匠 章子（北里大学病院 看護部）

参加費：会員 3,000 円、非会員 7,000 円 ※医療従事者のみを対象

<敬称略>

10:00 ～ 10:05	(5)	開会の挨拶	がん医療研修機構 理事長 加藤 晃史
10:05 ～ 11:05	(60)	I 特別セミナー 「外来化学療法看護 DX の最前線変革へのチャレンジ！～安全で効率的ながん薬物療法の提供をめざして～（仮）」 <b>共催：テルモ株式会社</b>	座長：佐々木 治一郎 （北里大学病院 集学的がん治療センター） 演者：山谷 淳子 （医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 看護部）
11:05 ～ 11:15	(10)	休憩	
11:15 ～ 12:15	(60)	II 教育セミナー 「ACP についての最近の話題～多職種チーム連携に向けて」	座長：山田 公人 （東京医科大学八王子医療センター 乳腺科） 演者：森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）
12:15 ～ 13:15	(60)	休憩	
13:15 ～ 16:30	(195)	III パネルディスカッション 「ACP 実践のための多職種チーム連携」 ① 医師の立場から「ACP の実践 -乳がん診療に携わる医療従事者へのアンケート調査結果を踏まえて-」（30分） ② 薬剤師の立場から「地域における ACP の実際（薬剤師編）」（30分） ③ 乳がん看護認定看護師の立場から「大学病院における ACP と意思決定支援の実践」（30分） 休憩（5分） ④ がん看護専門看護師の立場から「高齢がん患者への ACP -多職種で患者の思いを支援する-」（30分） ⑤ 訪問看護師の立場から「在宅におけるがん薬物療法・輸血療法継続患者の ACP の実践～治療の意思決定を支える在宅での多職種連携～」（30分） 休憩（10分） 総合討論（30分）	座長：藤田 行代志（群馬県立がんセンター 薬剤部） 番匠 章子（北里大学病院 医療安全推進室） 演者： ① 河手 敬彦 （東京医科大学病院 緩和ケア科／乳腺科） ② 笠原 庸子 （医療法人秋本クリニック 地域医療連携室） ③ 三原 由希子 （東京医科大学病院 看護部） ④ 井上 智香 （群馬大学医学部附属病院 緩和ケアセンター） ⑤ 田中 智代 （訪問看護ステーション colors）
16:30 ～ 16:35	(5)	閉会の挨拶	がん医療研修機構 第 39 回 担当役員 石川 孝

主催：NPO 法人 がん医療研修機構 <https://jocot.org/>

【問い合わせ先】NPO 法人 がん医療研修機構 事務局

〒650-0031 神戸市中央区東町 123-1 貿易ビル 4 階 (株)コンアラボ内

TEL：050-5527-7192 E-Mail：office@jocot.jp

## 第39回オンコロジーセミナー 企画趣旨

### 【セミナー開催日時】

主催：NPO 法人 がん医療研修機構

日時：2026年7月4日（土）10:00～16:35

会場：オンライン開催（ライブ配信）

当番理事：石川 孝（東京医科大学 乳腺科学分野 主任教授）

藤田 行代志（群馬県立がんセンター 薬剤部）

番匠 章子（北里大学病院 医療安全推進室 がん看護専門看護師）

### ◎メインテーマ

「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）実践のための多職種チーム連携」

### 教育セミナー（11:15～12:15）

テーマ：「ACPについての最近の話題～多職種チーム連携に向けて」

座長：山田 公人（東京医科大学八王子医療センター 乳腺科）

演者：森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

### 【演題要旨】

近年、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）は国内外で注目され、日本でも制度化や普及が進んできました。しかし、日本の文化的背景や実践上の多様な課題もあり、目的が曖昧となりやすく、QOL向上などの「効果」も限定的とする報告があります。ACPの概念とエビデンス、課題を整理し、現場での経験を踏まえながら、患者・家族のその時々  
の思いに沿った多職種チーム連携を実現するためにはどうすればよいか、皆様と検討できれば幸いです。

### パネルディスカッション（13:15～16:30）

テーマ：「ACP実践のための多職種チーム連携」

座長：藤田 行代志（群馬県立がんセンター 薬剤部）

番匠 章子（北里大学病院 医療安全推進室）

### 【企画趣旨・概要】

本セミナーでは、がん診療における患者の意思決定支援とその継続的な関わりについて、多職種の視点から考察する。医師・薬剤師・看護師・訪問看護師それぞれの立場から、診断期から治療、退院後・在宅療養に至るまでの支援の実際を共有する。若年・子育て世代から高齢患者まで、多様な背景を持つ患者事例や研究知見も踏まえ、患者の価値観に寄り添った意思決定支援と、その実現に向けた多職種連携のあり方について議論を深める。

### 【演題要旨】

#### 1) 医師の立場から

「ACPの実践 -乳がん診療に携わる医療従事者へのアンケート調査結果を踏まえて-」（30分）

演者：河手 敬彦（東京医科大学病院 乳腺科）

近年、がん診療においてアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性が認識され、2024年度の診療報酬改定では、ACPに関する意思決定支援の指針作成が要件として明文化されるなど、制度面での評価が進んでいる。なかでも乳癌は、長期的な治療経過や多様な選択肢を伴う疾患であり、患者の価値観に基づいた意思決定支援の必要性が極めて高い。こうした背景から、乳癌診療に携わる医療従事者を対象に、ACPの実施状況とその障壁を明らかにすることを目的としたアンケート調査を日本乳癌学会で行った。その結果を供覧しACPの実践に求められているものを考察する。

2) 薬剤師の立場から

「地域における ACP の実際（薬剤師編）」（30 分）

演者：笠原 庸子（医療法人秋本クリニック 地域医療連携室）

ACP は患者の価値観や人生観に基づいた医療・ケアの選択を支援するプロセスであり、継続的かつ対話的な関わりが求められる。薬剤師は薬物療法の専門家として、治療内容、副作用、服薬アドヒアランスなどに関する情報提供を通じて、患者・家族の意思決定を支える重要な立場にある。本講演では、ACP の実践における薬剤師の役割を共有し、多職種協働の中でより質の高い意思決定支援につなげるうえで求められる役割についても考えていきたい。

3) 乳がん看護認定看護師の立場から

「大学病院における ACP と意思決定支援の実践」（30 分）

演者：三原 由希子（東京医科大学病院 看護部）

ACP の実践において、看護師は患者・家族に最も近い立場で継続的に関わり、その意思や価値観を引き出し支える重要な役割を担う。特に乳がん患者においては、治療選択や生活の質に関わる多様な意思決定が求められる。本講演では、乳がん看護認定看護師としての関わりを通じた ACP の実践例を共有し、多職種連携の中で看護師に求められる役割について検討する。

4) がん専門看護師の立場から

「高齢がん患者への ACP —多職種で患者の思いを支援する—」（30 分）

演者：井上 智香（群馬大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）

高齢がん患者は身体・認知機能、経済面、社会的サポート等の個人差が大きく、意思決定支援においても多角的なアセスメントを要する。さらに、治療や療養場所の選択など大きな決定を必要とする場面では、本人と家族の意向が異なったり、治療の副反応によって今後の見通しがつきにくいなど、高齢がん特有の問題が生じやすい。高齢がん患者の特徴を踏まえ、どのように本人の価値観や意向を引き出し、多職種と連携しながら本人主体の意思決定を支援するか、皆様と一緒に検討したい。

5) 訪問看護師の立場から

「在宅におけるがん薬物療法・輸血療法継続患者の ACP の実践～治療の意思決定を支える在宅での多職種連携～」（30 分）

演者：田中 智代（訪問看護ステーション colors）

在宅で化学療法・輸血を継続する患者の増加に伴い、治療中止を含めた意思決定支援として ACP の重要性が高まっている。本発表では、多職種連携のもと ACP を実践した 3 症例を提示する。患者・家族の意向の変化や急変リスクに対し、訪問看護師を中心に情報共有と役割分担を行い、治療継続と安全性、生活の質のバランスを調整した。ACP は生活の場で継続的に見直すプロセスであり、多職種連携の重要性が示唆された。

6) 総合討論（30 分）

以上